

八角甲倉全景（北から）

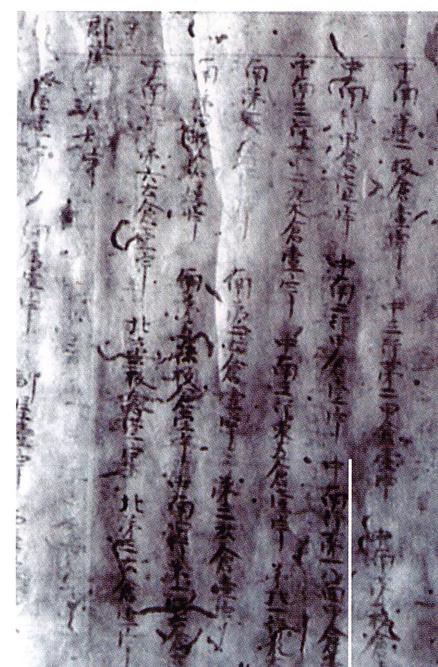
平成17年に行われた植蓮小学校での3次調査で八角形倉庫は発見されました。この建物は総地業を伴う礎石建ちで非常に大型です。また、礎石建物以前には掘立柱式の八角形倉庫だったことも判明しました。この建物は佐位郡正倉院のシンボルとして造られた倉庫と考えられます。



下層掘立柱建物の柱痕跡



下層の八角形掘立柱建物



「上野国交替実録帳」佐位郡項

群馬県には「上野国交替実録帳」という文献史料が残っています。この中で、佐位郡正倉院には八角形の倉庫（八面甲倉）があったと書かれています。この記載からみつかった八角形倉庫は校倉造りの高床式八角形倉庫であることが判明しました。また、掘立柱の柱の痕跡からこの八角形倉庫の柱は直径70cmほどと、東大寺の正倉院にもひけをとらないものでした。



復元した八面甲倉は約13mの高さで、小学校の校舎とほぼ同等の大きさになります。

現存する八角形倉庫はありません。よって建物を復元するにあたっては現在残っている古代の倉庫や文献史料、絵巻物などを参考にしました。なかでも規模が近い奈良・東大寺の正倉院は非常に参考になりました。しかし、今回の模型が完成形ではありません。今後も検討を重ね、当時の姿に少しでも近づけるよう、研究していくかねばならないでしょう。



柱は床を支えます



校木を組んで壁を作ります

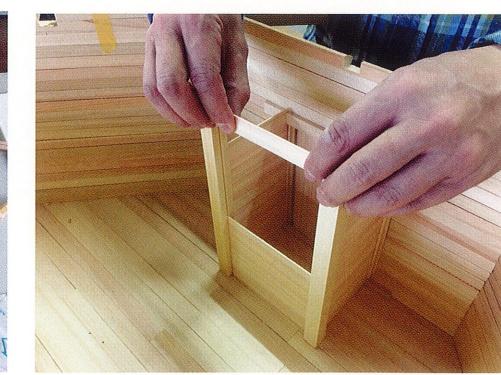


高床式倉庫の柱は基本的には床を支えるもので、床上までは延びていません。八面甲倉には44本の柱が立っており、床までの高さは約2.4mもあります。

校倉は現在のログハウスのような工法で壁を立ち上げます。校木は三角形ではなく六角形です。この校木も時期によって大きさが変化しますが、八面甲倉のものは東大寺正倉院の校木とほぼ同じ大きさです。



壁と床

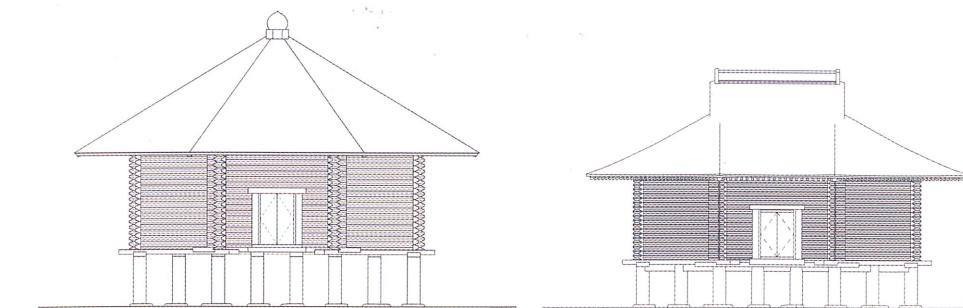


入り口付近には塞をもうけました

どうかん  
幢竿龍頭

八面甲倉復元模型

倉庫の前面には柱を斜めに立てた柱穴もみつかっています。これは斜めに檻を立てたものと考えられ、正倉院でなんらかの儀礼行為が行われていたことを示しています。特殊な倉だったことと関係があるのかもしれません。



屋根構造の検討

当初、倉庫の屋根は宝形造り（左）で考えましたが、確認された建物は正八角形にはならないことから小屋組等に不具合が生じるため少し変わった入母屋造り（右）としました。



小屋組



屋根は柿葺

調査で瓦等は出土していないため、今回の屋根は桧皮葺等の可能性もありましたが、板葺きの一種である柿葺としました。